

2 0 2 5 年度（令和 7 年度）

（令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 3 1 日まで）

事 業 報 告 書

学校法人 ワタナベ学園

令和7年度 理事長 事業報告

理事長 美入昌男

はじめに 令和7年4月より、寄附行為が施行され、学園はあらたなスタートを切った。令和8年4月学校教育法の改正に先立ち、専門学校2校の学則変更の手続きは令和7年12月末に完了した。高等教育機関として質の保証に努め、信頼される学校を目指す。今後とも園児、学生、教職員の Well-being(持続可能な幸福)の実現を願い、学園がワンチーム(信頼・協力・感謝の組織)となって取り組んでいく。

- 1 園児はWell-beingの基礎を培い、教職員の安全・命を守り、事故防止に取り組んだ。
- 2 人材(財)を確保し、後継者育成の取り組み 学園が必要とする有為な人材(財)を確保し、後継者・リーダーを育てた。園長会主催のリーダー研修会を2回4/3(木)、1/7(水)開催。年度末管理職退任者(室長1名、園長3名)の後任人事を円滑に進めた。
- 3 社会の変化に迅速に対応
社会の変化や国や県の動向に、勇気を持って果敢にチャレンジした。4月寄附行為の変更に伴い、新しい理事会・評議員会のもと学園づくりに取り組んだ。コンピュータ(ICT、DX、AI等)の教育・事務に有効活用にも取り組んでいる。
- 4 学園の中・長期計画について(鷹の目:俯瞰する、トンボの目:複眼)
今後の園児学生の減少、校舎等の老朽化に鑑み、中期事業計画を策定・具現化するため、7月3日将来構想委員会が発足し、中期事業計画を作成した。
- 5 学園のMVPの実践の取り組み
Mission(使命)は、園児(在園児約1200人)の教育・保育に取り組み、幼稚園教諭保育士43名、介護福祉士21名を養成、輩出した。
Vision(将来像)は、持続可能な学園の具体的な将来構想の構築に取り組む。
Passion(情熱)は、学園の所属職員がこのMission、Visionを自覚して、職務に情熱を傾けることを意識した。財政基盤の改善に取り組み、決算を支出超過(黒字)とすることができた。
- 6 「長く働くことができる」職場環境の取り組み
ワークライフバランス(仕事と生活の調和)を図り、ハラスメント(嫌がらせ等)を防止し、給与体制の見直し、業務改善に努めた。職員が、意欲をもって、明るく楽しく元気に仕事に専念し、課題を一人で抱え込まず、チームで協働する職場環境の実現に努めた。
所属職員が健康を第一に、ライフイベントを健やかに、過ごせるように、お互いの理解と協力と助け合いで、働きやすい職場づくりに取り組んだ。
- 7 職務の心構え3S+C Speed(速さ)、Smile(笑顔)、Spirit(誠実)を心構えとし、C(コミュニケーション情報共有)をとおして職務の専念に努めた。さらにコンプライアンス(法令順守)、ガバナンス(内部統制)の推進を図り、危機管理運営体制作りに取り組んだ。
- 8 凡事徹底(当たり前のことを当たり前に行う)に取り組む

まとめ 今年度を踏まえ学園が持続可能な法人として超少子高齢化が進む中、来年度は

①学生・園児の確保、②校舎園舎等の老朽化対策、③適正な規模、将来構想の策定、④教職員の確保と人材育成、⑤人事異動、⑥財政基盤の確立 等に、真摯に取り組む。

理事長 1/1

令和7年度 総務室 事業報告

令和7年4月1日、改正私学法が施行され、本学園においても寄付行為を変更し、新たな体制がスタートした。法改正の趣旨に鑑み、理事会、評議員会を中心に、ガバナンス体制の整備を進める中、「透明性」と「公平性」が最も重要であるとの認識からその強化に努めた。

1 働き方のルールについて

明確な基準を示した働き方のルールを策定し、教職員それぞれの理解と納得感を高めた。例えば、時間外労働の取扱いについては、長年、業務の性質上算定し難いものとして、給与に一定割合の手当を支給していたが、その算定基準や算定方法を明示し運用した結果、職場で時間管理の意識が高まり、業務改善が進められた。

2 安心して働ける職場のための対応

目まぐるしく変化する社会情勢に合わせ、迅速かつ適切に対応するよう努めた。今年度より育児・介護休業法が改正・施行され、男女ともに子育てや介護に直面した教職員が仕事と両立して働きやすい制度を整備した。また、昨今問題化しているカスタマーハラスメントに対しては、対応マニュアルを作成し、本学園ホームページに掲載することで、教職員が不安なく働くことができる職場環境の整備を推進した。

3 今後の課題

令和7年度決算における人件費比率は64.7%（派遣含む67.4%）という結果となり、相変わらず高水準の人件費比率を維持することとなった。このような状況の中、教職員の生活の維持・向上や次世代を担う人材の育成をしていくうえでは、賃金を含めた待遇改善は重要な問題である。そのため、人件費に見合う水準の事業活動収入が求められるが、学生生徒納付金等の収入が減少傾向の現状を踏まえると、諸々の待遇改善には相当な工夫が必要である。持続可能で安定した学園運営の実現には、引き続き、業務の見直しや改善に努め、透明性と公平性を確保しながら、納得性のある人員配置の最適化を図ることが急務である。

総務室長 1/2

4 令和7年度 教職員の現状

教職員数 . . . 204名（教員166名、職員38名 週20時間以上）

平均年齢 . . . 43.1歳（令和6年度42.9歳、令和5年度41.7歳）

育児休業取得者 . . . 14名（産前産後休暇後 100%取得）

障害者雇用 . . . 法定雇用率を満たす人数を雇用

離職率 . . . 6.86%

（参考：厚労省 令和6年雇用動向調査 産業別離職率 教育・学習支援業 13.1%）

令和7年度 学務室 事業報告

I はじめに 地域に必要とされ、信頼される魅力的で持続可能な学園とするためには、魅力のもと、つまり背景となる教育・保育活動の充実が不可欠である。地域に、選ばれる学園にするために学務室は充実した保育・教育活動の実現のため専門学校、認定こども園をサポートしてきた。その成果を専門学校と認定こども園の事業報告から抜粋する。

II 専門学校の事業報告から

1 地域から選ばれる魅力的な専門学校とするための取り組み

共通 学校関係者評価委員会開催／教育課程編成委員会開催／学校情報の公開／職業実践専門課程の認定校の継続／大学等における修学支援の認定校の継続

越保 保育祭／スポーツ大会／芸術鑑賞／おもちゃ美術館見学（体験含む）／保護者会／授業連携「連風」／地域活動

吉福 吉福祭／国試対策講座／常時授業公開

2 入学生確保のための取り組み

共通 学校案内作成／高校連携（訪問・出前講義・説明会参加・オープンキャンパス）／職業訓練生（ハロートレーニング）の入学

吉福 動画配信/情報提供（ビデオなど）/留学生指導の充実（国家試験全員合格）

3 保育や介護の現場で活躍する人材を育成するために

共通 実習先との連携／実習事後指導

越保 実習の充実

吉福 外部の専門家を講師として招聘／研究発表会／介護機器メーカーとの連携

4 教育課程の編成と見直し

共通 講師会/教育課程編成委員会開催

越保 指導大学指定養成機関指導委員会開催

5 卒業と就職

共通 就職説明会／卒後状況調査（訓練生）

越保 中途退学対策

III 認定こども園の事業報告から

1 子ども達の成長を促す保育の取り組み

吉幼 本に触れる体験の充実／「絵本の広場」の充実／各所に本を置く

越さ 「生きる力を培う保育」「いのち」「しぜん」の大切さに触れる

みさ 「ひとりひとりの育ちをサポートする」全園児合同保育

戸頭 「個性を伸ばす教育保育」／学びの芽や創造性、自主性、社会性を養う／子どもの主体的遊びや日常の充実

霞幼 「心をつなぐ歌声の響く幼稚園」／歌声タイム／ミニコンサート実施／個に応じた支援

柏ひ 保護者の思いに直接届く丁寧な保育

吉さ 様々な年齢の友達と活動する異年齢保育

2 全職員協働意識の醸成のための取り組み

共通 キャリアアップ研修の充実

越さ 保護者アンケート実施から職員のやる気創出

3 働き方改革の取り組み

戸頭 指導要録のパソコン入力／データ保存推進

4 園児募集・子育て支援の取り組み

共共通 プレイルームの実施（みさ園外でも実施）

共通 入園説明会実施

吉幼 越さ 霞幼 子育てサロン（育児相談・ママキッズマルシェ等）実施

みさ 霞幼 柏ひ 2歳未就園児保育（有料）の実施

共通 地域との連携・自治会など

5 その他（特記される事項）

共通 幼保小連携推進

みさ 霞幼 柏ひ 吉さ 特別な配慮が必要な園児への指導の研究

吉幼 柏ひ 保護者用駐車場の拡充

III 学務室の総括

園長会、校長会の運営、入園案内制作、ホームページの更新、ハラスメント対応マニュアル等の策定（総務室とともに）、業者対応、園児・学生事故対応、自治体への諸報告・許認可業務、生徒募集用務（専門学校）、研究・研修補助制度管理、システムによる学費管理、学費決算報告

1 決算報告（令和6年度末には膨大な事務量が発生した。）

定期的に事務連絡会を行い、各園事務担当者との連携が取れたことにより、前年度よりもスムーズに進められた。しかし、いくつかの課題と反省点も残ったため、令和8年度決算に向けて、学費管理を徹底したい。

2 学則、園則変更等の概要

越谷保育専門学校 学校教育法改正に伴う変更

吉川福祉専門学校 学校教育法改正に伴う変更

吉川幼稚園 預かり保育料、教育を提供しない日の変更

越谷さくらの森 利用定員、教育充実費の変更

みさとさくらの森 利用定員、教育充実費の変更

戸頭さくらの森 教育充実費、給食費の変更

霞ヶ関幼稚園 利用定員、教育充実費、入園受入準備費の変更

柏ひがし幼稚園 預かり保育料、教育充実費、給食費の変更

吉川さくらの森 教育を提供しない日の変更

3 研究・研修費補助制度の見直し（昨年から継続）

IV 今後の取り組み

学校法人としての運営の根本は教育・保育の活動の充実である。学園の存在意義を自らに問いかけつつ、選ばれる専門学校、選ばれる認定こども園となるための不断努力が必要である。各校、各園がそれぞれの魅力の創造に取り組むことが重要である。まとめると以下の枠内ようになる。

① 教育・保育活動の充実 →② 在籍学生・在籍園児の満足 →③ 保護者、家族の満足 →④ 地域の評判・信頼 →⑤進学希望・入園希望の増加 →①へ

専門学校部門の2校の卒業生はいずれも卒業時に国家資格を取得する。卒業後は社会を支える大きな力となる。これからの社会で活躍する有為な人材を輩出する信頼される専門学校となっていくことが期待される。

認定こども園部門では保護者から信頼され、社会から期待される認定こども園になっているのか。社会の次の担い手として成長していく幼児の健全な成長を見守り育む認定こども園となっているか、自らに問い続けながら魅力的な教育保育活動の実現を目指していく。

いかに特に留意すべき点を挙げる。

- 1 学生、園児の安心安全を第一として教育、保育環境の整備を図る。
- 2 すべての専門学校、認定こども園で職員のコスト（費用対効果）意識を醸成し、適正で効果的な予算執行を促す。
- 3 複数の専門学校、複数の認定こども園を持つ学園のメリット（強味）を生かし、直面する課題の最適解を探るとともに効果の上がった取り組みを相互に学びあうなどし、教育保育活動の充実を図る。

令和7年度 越谷保育専門学校 事業報告

令和8年5月1日

1 令和7年度における特記事項

(1) 年度当初在籍数の推移

R3年度149名、R4年度143名、R5年度135名、R6年度118名、R7年度113名

(2) 学生募集について（年度別入学者数の推移）

本科生 R3年度73名 R4年度64名 R5年度56名 R6年度46名 R7年度55名

訓練生 〃 0名 〃 7名 〃 8名 〃 7名 〃 3名

合計 〃 73名 〃 71名 〃 64名 〃 53名 〃 58名

(3) 中途退学者の推移（令和8年3月31日現在）

本科生 R3年度7名 R4年度5名 R5年度7名 R6年度10名 R7年度7名

訓練生 〃 0名 〃 2名 〃 0名 〃 1名 〃 1名

合計 〃 7名 〃 7名 〃 7名 〃 11名 〃 8名

(4) 情報公開について（本学HP掲載）

ア 職業実践専門課程認定 イ 自己評価報告書

ウ 学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の議事録

2 学事報告

(1) 入学式4月4日(木)午後2時開式 入学生58名 越谷市中央市民会館

(2) おもちゃ美術館見学4月22日(火) インストラクター資格講習8月28日(木) 修了者53名

(3) スポーツ大会 6月6日(金) 越谷市総合体育館アリーナ

(4) 保育祭10月31日(金) 招待園児みさとさくらの森 11月1日(土) 一般公開来校264名

(5) 保護者会の開催 7月21日(月) 35組61名の保護者家族の参加

(6) 実習懇談会の開催 3月6日(金) 20名参加

(7) 2年次研修 10月3日(金) 劇団四季「アナと雪の女王」鑑賞

(8) 卒業証書授与式 3月17日(火) 午後1時開式 卒業生43名 越谷市中央市民会館

(9) 学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の開催

第1回 7月7日(月)、外部委員5名・本学関係者7名参加

第2回 12月1日(月)、外部委員6名・本学関係者7名参加

(10) 講師会の開催 前期9月2日(火) 専任教員11名 非常勤12名 計23名参加

講演「未来の保育を創るICT・AIの上手な付き合い方」講師 生山 浩様

後期3月6日(金) 講演「こども政策について」講師 埼玉県こども支援課 大木 各様

専任教員9名 非常勤15名 計24名参加

(11) 指導大学指定養成機関指導委員会

12月12日(金) 指導大学による会議を実施 学事報告、指導講評

指導大学十文字学園女子大学関係者11名、本部職員3名、本学職員6名

(12) 地域活動への参加 本学生及び教職員による学校周辺地域清掃活動の実施

1年 11/6(木)、2年 11/7(金)

(13) 授業を活用した連風連携1/27(火) 越谷さくらの森 越谷市総合運動公園

3 「卒業生の進路就職状況」、「卒業判定の実施状況」、「入学試験の実施状況」、「施設・設備等の整備状況報告書」は、別紙のとおり

令和7年度事業報告資料

越谷保育専門学校

1. 卒業者の進路就職状況

学 科 名	昼夜別	県内への就職者数		県外への就職者数		大学・短大 進学者数	その他	卒業者数 合計
幼稚園教諭保育士養成学科	昼	37名	(36名)	6名	(6名)	名	名	43名
合 計		37名	(36名)	6名	(6名)	名	名	43名

注) 県内への就職者数及び県外への就職者数欄の()内に、それぞれの履修学科関連業務への就職者数を内数で記載すること。

2. 卒業判定の実施状況

学 科 名	昼夜別	卒業判定日	卒業年次 在籍者数	卒業者数		留年者数		その他(退学者等)	
幼稚園教諭保育士養成学科	昼	令和8年3月2日 令和8年3月10日 令和8年3月27日	55名	男 5名	計 43名	男 1名	計 8名	男 1名	計 4名
				女 38名		女 7名		女 3名	
合 計			55名	男 5名	計 43名	男 1名	計 8名	男 1名	計 4名
				女 38名		女 7名		女 3名	

3. 入学試験の実施状況

学 科 名	昼夜別	入学試験実施日	入学定員	受験者数	合格者 発表者数	入学者数	
幼稚園教諭保育士養成学科 ()内:訓練生	昼	7/12、8/23、9/13、10/4、10/18、10/25、 11/15、12/6、1/17、2/1、2/20、3/22	80名	52名	52名	男 12名 (3名)	計 12名
				(4名)	(4名)	女 38名 (1名)	計 38名
合 計			80名	52名	52名	男 12名 (3名)	計 12名
				(4名)	(4名)	女 38名 (1名)	計 38名

令和7年度施設・設備等の整備状況報告

施設名：越谷保育専門学校

事 項	内 容（具体的に記入すること）
(1) 施 設・設 備	・校舎西側門扉新設工事（構築物） ・転落防止ネット復旧工事（修繕）
(2) 備 品	・特になし
(3) 図 書	・新刊図書（296冊） ・保育専門雑誌（19種）
(4) 学生への対応	・特になし
(5) そ の 他	・特になし

（注）当該年度に実施した教育研究条件の整備状況等について、事項別にその内容を記載すること。

令和7年度 吉川福祉専門学校 事業報告

令和8年5月1日

1 令和7年度における特記事項

前年度の振り返りを反映した学事日程の検討

令和8年度入学生27名入学（定員充足67.5%）（在籍総数51名・定員充足率63.8%）国家試験合格率90.4%（卒業生全員受験）留学生の卒業生4名 全員合格

2 学事報告

学生概況 1年在籍28名進級23名 進級率82%(96) 進路変更3名(除籍2名退学3名)

2年在籍23名卒業21名 卒業率87%(100) 進路変更2名(退学1名留年1名)

生徒募集状況・令和8年4月入学（昨年数）

高校新卒	指定校	6 (10)	12 (11)
	その他	6 (1)	
社会人過年度卒	職業訓練	5 (9)	7 (9)
	その他	2 (0)	
留学生		8 (7)	8 (7)
合 計		27 (27)	27 (27)

国家試験受験結果(昨年数・比率)

	受験者数	合格者数	合格率
日本人	17名 (31)	15名 (29)	88.2% (93.5)
留学生	4名 (-)	4名 (-)	100% (-)
合計等	21名 (31)	19名 (29)	90.4% (93.5)

- (1) 時間割内に組み入れて開設した国家試験対策講座や補習等が効果的であった
- (2) 自然発生的に実施された個別グループ勉強会などで合格を目指す姿があった
- (3) 2年次に留学生の在籍4名 国家試験全員合格
- (4) 教員、学生、卒業生対象専門性向上、維持の特別講座は本年も開催を見送った
- (5) 訪問活動を少しずつ拡大したものの年度当初、他の業務により出遅れた
- (6) 関係性のできている高校へ進級・卒業・就職等出身者情報を届けた
- (7) 介護職就労のため施設と連携を図る
- (8) 高校等依頼による分野説明会16回（前年19回）、模擬授業参加なし（前年2回）
- (9) 資料請求者に対する資料送付251通（前年235通）
- (10) 授業成果の公開を目標に第10回学校祭(吉福祭)を開催し188人が参加した
- (11) 実務者研修受講者11名(前年11名)、初任者研修開催無し（前年3名）

3 「施設・設備等の整備状況報告書」は、別紙のとおり。（フランスベッド（株）様よりマルチポジションベッドをはじめ最新介護機器を無償で借用中・4年目）

4 「進路就職状況報告書」、「卒業判定の実施状況報告書」、「入学試験の実施状況報告書」は、別紙のとおり

令和7年度事業報告資料

吉川福祉専門学校

1. 卒業者の進路就職状況

学 科 名	昼夜別	県内への就職者数		県外への就職者数		大学・短大 進学者数	その他	卒業者数 合計
介護福祉科	昼	16名	(16名)	4名	(4名)	0名	1名	21名
合 計		16名	(16名)	4名	(4名)	0名	1名	21名

注) 県内への就職者数及び県外への就職者数欄の()内に、それぞれの履修学科関連業務への就職者数を内数で記載すること。

2. 卒業判定の実施状況

学 科 名	昼夜別	卒業判定日	卒業年次 在籍者数	卒業者数		留年者数		その他(退学者等)	
介護福祉科	昼	令和8年3月3日	22名	男 8名 女 12名	計 20名	男 1名 女 0名	計 1名	男 0名 女 1名	計 1名
介護福祉科	昼	令和8年3月16日	1名	男 1名 女 0名	計 1名				
合 計			23名	男 9名 女 12名	計 21名	男 1名 女 0名	計 1名	男 0名 女 1名	計 1名

3. 入学試験の実施状況

学 科 名	昼夜別	入学試験実施日	入学定員	受験者数	合格者 発表者数	入学者数	
介護福祉科 ()内:訓練生	昼	10/11、10/25、11/8、11/29、12/13、 1/17、(2/19)、3/19	40名	23名 (6名)	23名 (6名)	男 12名 (4名) 女 10名 (1名)	計 16名 計 11名
合 計			40名	23名 (6名)	23名 (6名)	男 12名 (4名) 女 10名 (1名)	計 16名 計 11名

令和7年度施設・設備等の整備状況報告

施設名：吉川福祉専門学校

事 項	内 容（具体的に記入すること）
(1) 施設・設備	・介護実習棟1階ブラインド交換
(2) 備 品	・ノートパソコン（14台） ・外付けDVDドライブ（1台） ・W I - F I 無線LAN中継器（1台） ・介護ベッド（1台）
(3) 学生への対応	・感染症防止対策実施
(4) そ の 他	・全自動電動介助ベッド（マルチポジションベッド） ・転倒防止車イス（ころばないす） ・電動アシスト付歩行器（ロボットアシストウォーカー） ※上記3点は、(株)フランスベッド様より無償借用中

(注) 当該年度に実施した教育研究条件の整備状況等について、事項別にその内容を記載すること。

令和7年度 幼稚園型認定こども園吉川幼稚園 事業報告

令和8年5月1日

1 令和7年度の重点目標

○「本に触れる体験を通して、生きる力を育てる」

※各部屋や絵本の広場の部屋に、発達段階に応じた本を設置し、読み聞かせや読書を通して本に親しむ体験の充実を図ったことにより、豊かな情操や自己肯定感を高めることができた。

○「のびのびと遊ぶ中で、生きる力を育てる」

※子どものやりたいという気持ちを大切に、遊びや行事、自然体験活動の充実を図ったことにより、コミュニケーション能力や学びの芽を育むことができた。

2 教育・保育の実施

(1) 教育・保育の取り組み

○重点目標の「本に親しむ体験の充実」に向けて、下記の方策に取り組んだ。

- ・2階に「絵本の広場」の部屋を設置し、適切に利用したり貸し出しをしたりできるようにした。
- ・市立図書館と連携し、毎月100冊の本を借りる仕組みを整えた。
- ・職員による読み聞かせを定期的の実施した。
- ・幼稚園バスでの送り迎えの際や食後に「読み聞かせタイム」を実施した。

○重点目標の「のびのびと遊ぶ」に向けて、下記の方策に取り組んだ。

- ・子どもの遊びたいという気持ちを大切に、日常の遊びや行事、自然体験活動の計画実践を行った。
- ・お散歩マップを活用し、園外での活動を積極的に取り入れた。
- ・バス待ち、たんぼぼ、園庭遊び、朝の自由遊びなどの中で、縦割り活動の充実を図った。
- ・遊びを通した総合的な学びの中で、自分の思いや願いを実現する経験を重ね、非認知能力の育成に取り組んだ。
- ・日常生活の中では、あいさつ、返事、後片付けなどの基本的な生活習慣の定着を図った

(2) 預かり保育事業の取り組み

○預かり保育事業の充実に向けて、以下の方策に取り組んだ。

- ・働く保護者が安心して預けられるように、預かり保育の安全と充実常に配慮をする。
- ・新2号保護者の確保のため、優遇措置を工夫する。
- ・保護者用の駐車場を4台増やし拡大した。
- ・満3歳児クラスの充実を図り、次年度の入園につなげる。

(3) 子育て支援事業の取り組み

○子育て支援事業の充実に向けて、以下の方策に取り組んだ。

- ・一人ひとりの園児理解を深めることにより、子どもの気持ち、保護者の気持ちに寄り添い、一人ひとりのよさを伸ばす保育を実践した。
- ・年次研修、キャリアアップ研修を充実させ、保育士一人ひとりの保育の質向上を図った。
- ・地域との連携を大切に、日頃から自治会(保3区)を始め、地域の方々との交流を深め、地域の中の「吉川幼稚園」として信頼関係を築いてきた。
- ・ベビーサロンの実施

3 令和7年度の特記事項

- 表現力の向上(廃材利用、感触遊び、リトミック体験、作品展等)
- 異年齢保育の充実(朝の自由遊び、園庭遊び、バス待ちなど)
- 誕生会の充実、保護者の参観
- 親子でランチタイムの実施

4 「施設・設備等の整備状況報告書」は、別紙のとおり

令和7年度 幼保連携型認定こども園越谷さくらの森 事業報告

令和8年5月1日

1 令和7年度の重点目標

- (1) コロナ後の新しい生活様式にも慣れ、保育内容も保育充実してきた。教職員間での意思疎通（報告・連絡・相談）を重要課題とし、子どもたちをみんなで育てる心構えを持つ。
- (2) 子どもたちの生き生きとした様子や先生とのかかわり、教職員同士の関係などを保護者に身近で感じていただき、安心して過ごせる場として信頼される園づくりを目指す。

2 教育・保育の実施

(1) 教育・保育の取り組み

認定こども園は、保育の必要な事由のある子どもも教育を受けることができる場所である。一人ひとりの生活環境や成長段階を理解し、乳幼児の発達に即した子どもの主体性を「生きる力を培う保育」として、経験活動中心に怪我や事故のない安全確認と、各年齢の教育・異年齢教育の内容充実、教職員の資質向上に努め、取り組んできた。特に乳児は、散歩を通して体中で「いのち」「しぜん」の大切さに触れ、心の安定や健康な身体づくりに繋げることができ、幼児は、集団生活でのルールや約束他者への思いやりを学ぶことができた。

(2) 預かり保育事業の取り組み

- ・幼稚園部門の預かり保育では、3クラスに分かれての内容・異年齢とのかかわりの充実、お迎えの時に「どこで」「だれと」「どのように」過ごしたかを申し送りや掲示物などを利用して「見える化」することで安心して預けていただけるように努力した。
- ・登降園アプリを利用することで、登園予定や給食の有無・登降園の管理がしやすくなり、保育教諭、保護者の負担軽減につながった。

(3) 子育て支援事業の取り組み

- ・プレイルームの内容充実・丁寧な園内案内、園内開放をすることでの園に対しての理解を図った。保護者主体のママキッズマルシェを実施、園を知ってもらうことができた。
- ・個人面談や日常の会話を通して保護者とのコミュニケーションの機会を持ち、信頼関係を深められるように心がけた。
- ・園としての災害・防犯・安全管理など対応を詳しく知らせ「安心して子どもを任せられる園」と認識してもらえるようにした。

3 令和7年度の特記事項

(1) 園・保育教諭・保育内容についてのアンケートを実施

行事や日々の保育の中で様々な経験ができ、子どもが楽しんでいる姿がある、担任だけでなく、いろいろな先生とのかかわりが見られ、先生たちみんなで見ている安心感があるなどの意見をいただき、先生たちのやる気にも繋がった。

(2) 年長児が城ノ上小学校との交流会を実施した事で、小学校への期待を持つことができた。

(3) 積極的に満3歳児の受け入れをし、令和8年度の3歳児の確保につなげることができた。

4 「施設・設備等の整備状況報告書」は、別紙のとおり

令和7年度 幼保連携型認定こども園みさとさくらの森 事業報告

令和8年5月1日

1 令和7年度の重点目標

教育・保育研究計画 「ひとりひとりの育ちをサポートする」

0～2歳児は個々の成長に呼応した保育を行うため、環境を整えるとともに保護者との連携を重視する。3～5歳児は“遊びを通した総合的な指導”が図れるよう子どもの興味関心を軸にしながら活動の流れを考慮し環境を整えていく。

2 教育・保育の実施

(1) 教育・保育の取り組み

※全園児合同活動が軌道に乗った。今後も発展させていく。

※全クラス保育参加事業を実施した。希望者のみ・アンケートを実施し年度末に公表する。

- ・PCを使用する機会を増やした。メール配信や0～2歳児の日々の様子については写真を添付して伝える、午睡チェックを行う。
- ・保護者へのお知らせについてはメール配信に移行完了。
- ・3～5歳児の給食費については前月の半ばに欠食の連絡を受けた場合の食数減らして、次月に引き落としをすることにした。そのことにより返金作業を行わないようにした。
- ・学園主任会の継続。次期管理者に学園運営について多角度から学んでもらうことを目的。
- ・三郷市の発達支援センターの訪問や各園児が利用している施設の訪問を受け、該当児の育ちや対応について相談をしたり指導を受けたりした。三郷市の発達支援に関する研修会に多くの先生が参加することができるようにした。

(2) 預かり保育事業の取り組み

- ・3～5歳児についてはおやつまでは2保育室に分かれて落ち着いて過ごすようにし、その後はホールや園庭で活動をした。広い場所で異年齢児の遊びを楽しむことができたようにした。夏の暑くて外に出ることができない時期や利用人数の少ない時は、0～2歳児も一緒にホールで遊んだ。
- ・職員や職員の家族が体調不良で欠席が多くなった場合は、利用人数に応じて、0～2歳児担当と3～5歳児担当が協力し合って勤務調整を引き続き行った。

(3) 子育て支援事業の取り組み

- ・パンダクラブの説明会を実施する。令和7年度に向けては2回実施。
- ・現保育園棟のぞう組と現パンダクラブの未就園児の合同クラスとして活動の場を引き続き広げる。その活動の中で得た情報を活用し、就園前教育の充実を図るよう心掛けた。
- ・出張スマイルクラブを吉川市にも広げる。
- ・複雑な家庭環境の子どもや海外の子どもが増えている。対応の工夫を行っている。
- ・満3歳児クラスの募集。パンダクラブ在籍者の中で、①希望者は満3歳児クラスに入園 パンダクラブ在籍に分かれることができたようにした。

3 令和7年度の特記事項

- (1) 今後の1号認定児の入園減を見込まれるため、認定変更についての相談を三郷市と行った。

令和8年度以降の認定変更について引き続き相談を行う。

- (2) 教育充実費を3,500円から4,000円に変更をした。
- (3) 2,3号認定児の延長保育・土曜給食費については、保育料と一緒に引き落としすることに変更をした。(1号認定児の預かり保育代については、新2号認定児の請求日の関係で三郷市との調整が出来ず、集金袋での集金を実施)
- 4 「施設・設備等の整備状況報告書」は、別紙のとおり

令和7年度 幼保連携型認定こども園戸頭さくらの森 事業報告

令和8年5月1日

- 1 令和7年度の重点目標
 - 「子ども一人ひとりの性格、特徴、発達段階の違いを認め、それぞれのよさ、個性を伸ばす教育・保育に努める。」
 - 「子どもの主体的な遊びや日常生活を中心として、学びの芽や創造性、自主性、社会性を養う。」
- 2 教育・保育の実施
 - (1) 教育・保育の取り組み
 - 「子ども一人ひとりのよさ、個性を伸ばす教育・保育の充実」に向けて、下記の方策に取り組んだ。
 - ・保育者による子どもの目線で共感する姿勢を大切にした教育・保育
 - ・関係機関と連携した一人ひとりの発達課題に応じた支援
 - ・キャリアアップ研修など園内外の研修への参加による保育教諭の資質・知識の向上
 - ・体の発達に適した運動活動の配慮、幼児体育遊び
 - ・外国人教師と触れ合い楽しみながら行う英語遊び
 - ・保幼少接続を意識した活動の実践
 - 「子どもの主体的な遊びや日常生活の充実」に向けて、下記の方策に取り組んだ。
 - ・学園内の研究会のテーマを上記目標をもとに設定し、継続的な研究の実践
 - ・教職員の負担軽減を図ることによる教職員の指導力の向上
 - (2) 預かり保育事業の取り組み
 - 「早朝・延長・預かり保育の充実」に向けて、下記の方策に取り組んだ。
 - ・2号認定の早期保育を7時から開始し、延長・預かり保育を1号2号認定共に19時まで実施した。
 - ・1号新2号認定の長期預かり保育を8時30分～17時30分とする。2号認定は、7時～19時までとした。
 - ・各学年1クラスずつに分けて教育時間終了後の保育を実施する。但し、2号認定と預かり保育の子どもたちを合わせて32名以下の場合には合同保育を行った。
 - ・地域に信頼されかつ魅力的で安心して子どもを預けて働くことができることも園づくりに、職員一同意識して取り組んだ。
 - (3) 子育て支援事業の取り組み
 - 「子育て支援事業の充実」に向けて、下記の方策に取り組んだ。
 - ・保護者の話に耳を傾けて子育ての悩みなど相談にのり、丁寧な対応に心がけた。
 - ・プレイルームの活動内容を魅力あるものとし、戸外遊びや園庭遊びも含めて、親子の触れ合いを十分楽しめるように保育内容を考えた。
 - ・満3歳児クラスへの途中入園を積極的に広報し受け入れた。
 - ・施設、保育環境、学園教育理念、保育の実態について理解が得られるように努めた。
 - ・入園説明会当日に、園児たちが事前に準備したお店屋さんごっこに、親子で楽しく参加してもらった。
- 3 令和7年度の特記事項
 - 「教職員の負担軽減を図ることによる教職員の指導力の向上」に向けて、下記の方策に取り組んだ。

- ・指導要録のパソコン入力及びデータ保存への移行
- ・保存文書のうち、約半数の文書のデータ保存への移行
- ・児童票の作成の廃止
- ・園内のプールからスイミングスクールへの変更
- ・保護者会活動から保護者ボランティア活動への変更

4 「施設・設備等の整備状況報告書」は、別紙のとおり

令和7年度 幼保連携型認定こども園霞ヶ関幼稚園 事業報告

令和8年5月1日

1 令和7年度の重点目標

子ども一人ひとりを大切にし、個性を豊かに育てる【心をつなぐ歌声のひびく幼稚園】

- (1) 子ども一人ひとりのよさを生かす
- (2) 心をつなぐ歌声のひびく幼稚園づくり
- (3) 潤いのある教育環境づくり
- (4) 認定こども園へ移行5年目としての保育実践
- (5) 保護者・地域との積極的な連携による開かれた幼稚園づくり

2 教育・保育の実施

(1) 教育・保育の取り組み

- ・年間9回の、ミニミニコンサート・お楽しみ会を実施。
- ・歌声タイムを月に1回実施し、唱歌指導を受け子どもたちの歌い方の変化を感じる。
- ・7月にお泊り保育を実施。深夜の警備は心配ではあるが、子どもたちにとっても特別な行事となっている。安全を守り今後も実施していきたい。
- ・作品展を各保育室で行っていたが、今年度よりホールのみ展示・3日間・一斉降園後から18時半までの間で観覧していただくことに変更した。

(2) 預かり保育事業の取り組み

令和7年度より、1号認定児の預かり保育時間を、2号認定児と同様の時間に拡大した。
午後のおやつも、週4回は手作りおやつを提供をしている。2号認定児・新2号認定児の利用者が増加し80名超えて、夕方のパート職員のほか、フリー職員・週に1～2日担任も保育に当たっている状況である。

(3) 子育て支援事業の取り組み

未就園児2歳児つくし組：7年度は、利用者が多くその方々が入園に繋がった。令和8年度は実施日を増やす。満3歳児との連携を図り入園時が安心して園生活をスタートすることができている。

子育てサロン（親子）：年間18回実施。乳児が増え、親子リトミックメインにし・スキンシップが図れる手遊びなど見直しを図った。つくし組の利用を開始した家庭は、親子クラスの利用は無くなった。

3 令和7年度の特記事項

年少児に特別支援を要する園児が各クラス4、5名程いた。子どもの支援はもちろん、保護者の支援を行い子どもの成長に繋がるように、日々様子を伝えていった。送迎に来る保護者と担任とのかかわりは、信頼関係を築きあげるため担任は熱心に対応している。

またホームページの更新の頻度も高いので、転入も多く入園に結び付いている。

4 「施設・設備等の整備状況報告書」は、別紙のとおり

令和7年度 幼稚園型認定こども園柏ひがし幼稚園 事業報告

令和8年5月1日

1 令和7年度の重点目標

- ① 家庭との緊密な連携の下に、園児の状況や発達過程を踏まえ、一体的な保育・教育を目指す
- ② 園児募集に対する全職員の意識度を高めることを目指す
- ③ プレイルームの存在・活動内容を周知させていく
- ④ 人材育成—保育内容の充実・質の向上を目指す
- ⑤ 防災・防犯対策の見直し
- ⑥ 地域との交流・連携を図りながら、子育て支援に取り組んでいく

2 教育・保育の実施

(1) 教育・保育の取り組み

- ・保護者の思いに直接的に届く、ひとり一人の教諭の園児目線とした丁寧な保育を教諭の心の枠組に位置付けることに、研修、言葉、会話などの徹底を図る。
- ・学園のキリスト教保育の理念に特化した幼児教育を徹底的に追求し、高め、保護者の「園選びの思い」に教諭間の施行の共有を徹底実施。
- ・（健常児及び発達しょうがい児全員）全園児の人としての成長を、保護者が心から実感できる幼児教育の実施。
- ・支援が必要な子どもたちに対して、市・療育センターとの連携を積極的に取り組む。お互いに情報提供を行い、子どもの支援の仕方をすり合わせしながら関わり方を模索。
- ・3歳児 4歳児 5歳児 特別支援児各々の発達段階を踏まえた、教諭たちの丁寧な保育カリキュラムの実施の仕方の研修と実施。
- ・防災・防犯対策について、園で実施していることを小まめにお知らせしていくことで保護者の方へ安心感を持っていただく。
- ・地域の方との交流（行事関係の訪問等）を積極的に行っていく。

(2) 預かり保育事業の取り組み

- ・保育後の預かり保育は、就労者以外の園児も行っている。
- ・夏・冬・春の長期預かり保育を実施。基本的には就労者のみの利用となっているが、保護者の体調不良・家庭の事情がある場合は受け入れをするなどの柔軟な対応を行った。
※夏期預かり保育中は、設営した大型プールを毎日活用し、子どもたち、そして保護者からも喜ばれた。（大型テントを準備、熱中症対策をしっかりと行う）
- ・土曜保育に関しては、基本的に就労者のみであるが、家庭の事情がある場合は園長判断により、受け入れた。
- ・預かり保育担当者だけにまかせっきりにするのではなく、フリー・担任など職員全員が積極的に関わり、協力し、怪我の無いように保護者にお渡しすることを心がけた。
- ・保護者から得た情報は職員同士が小まめに連絡を取り合い、全員で情報を共有した。

(3) 子育て支援事業の取り組み

- ・プレイルーム（未就園児クラス）を開催する。（月・火曜日）

(周知の方法としてポスターを作成、掲示のご協力をお願いした)

- ・市役所・療育関係の方からの紹介で連絡が入った場合(他の園をお断りされた方も含む)、電話でのやり取りだけではなく、実際に園に足を運んでもらい、お子様の様子を見せていただきながら対話を重ねていった。

3 令和7年度の特記事項

令和7年度は年少クラス在籍者が46名(満3歳児6名を含む)のため2クラスにした。本来であれば各クラス、担任1名・副担任1名の計2名で対応していきたい人数であるが、今年度は、しっかりしている子もいるが、療育に通っている子どもの数も多く、また他児に対して手が出てしまう子ども数名いたため、年間を通してそれぞれのクラスともに担任の他、常に1名~2名の職員の配置が必要な状態であった。満3歳児で入園希望の方が数名いたのだが、受け入れ可能な状況にならず、待っていただいていることで、他の保育園に入園を決められた方が出てしまったことがあり遺憾であった。

(職員の不足・パートの方の勤務時間の関係)更に主任2名体制であるが、仕事配分が偏ったものになってしまったことが続いた一年間でもあった。以前より少しゆとりが持てる時もあったが、パートの先生方が子どもたちの降園前に退勤してしまうことで、午後の時間は療育のお迎え対応・各クラスサポートに追われてしまうこと様子は相変わらずであった。園全体で療育に通っている園児・支援が必要と認定されて園児が多数いることもあり、各クラスに加配などのサポートが必要にも変わらず、全員が何らかの担当と兼務して急場を凌いだ状況も続いている。

パートの先生・派遣職員に来ていただいているが、勤務時間が短いこと、長期預かりの保育時期の休みが多いこと、その他の勤務条件があるため、正規職員にしわ寄せがきてしまうことが依然として続いている。

年少クラス保護者の一部から、幼稚園での様子がもっと知りたいとのご意見をいただいている。来年度はホームページでの情報提供を小まめに行っていくこと、「公開保育」の実施も積極的に考えていきたい。

行事の内容取り組みに関しては、年中長保護者の方は「よかった」「あつという間だった」というご意見が大多数であるが、年少保護者の方の中には「待ち時間が長い」というご意見も数名ではあるがいただいている。少しでも解消できるにはどのように進めていけば良いか。状況や様々なことを考慮しながら、子ども達が楽しめる、そして見ていただく保護者の方にも子どもたちの成長をともに喜んでいただけるような行事を開催していきたい。

4 「施設・設備等の整備状況報告書」は、別紙のとおり

令和7年度 保育所型認定こども園吉川さくらの森 事業報告

令和8年5月1日

1 令和7年度の重点目標

- ・吉川さくらの森は、令和4年度頃から定員を満たす事ができるようになってきた。これからも引き続き定員数に達するように、様々な角度から取り組んでいきたいと思う。具体策としては、以下の通りである。

- ① 一人ひとり子ども達にきめ細かい配慮をし、丁寧な保育を心がける。

- ② 保育者がより、成長するためにも積極的に研修へ参加し、自己研鑽に努める。
- ③ 地域で活動している子育てサロンなどに園の紹介文など冊子にのせてもらい子育て世代の方たちに園の特色などを知ってもらう。

- ④ 人材確保の為、新規採用、職場復帰、再雇用等総合的にいき、人手不足の解消に繋げる。

2 教育・保育の実施

(1) 教育・保育の取り組み

- ・子ども達が生涯を通して人との関わり方を学ぶ大事な機会が失われている昨今、当園では敢えて「異年齢保育」を取り入れ、様々な年齢の子ども達と活動する時間を設けた。この活動を園内研修と位置付け、これからも研究を続け、今後の保育に役立てていく事とした。

(2) 預かり保育事業の取り組み

- ・本園は、保育所型認定こどもで園ある為、「預かり保育」という保育内容の区切りは無く、通常保育と同様に行っている。また、保育者も「預かり担当」というカテゴリーは無く、全員シフト制で勤務している。

(3) 子育て支援事業の取り組み

- ・未就園児対象として、「スマイルクラブ」を行っている。参加者は、ほぼ1号認定児の為少人数で家庭的な雰囲気の中で活動している。内容としては、園庭遊び、行事に因んだ製作等である。
- 令和7年度実施回数 10回（うち1回は1日入園）

3 令和7年度の特記事項

- ① 吉川市内の保育所付近（資材置き場）での火災について報告と注意喚起が行われた。これに伴い、当園でも毎月の避難訓練を振り返り、全職員で話し合い園児の安全を最優先に避難等の対応と事故防止の周知徹底をはかった。
 - ② 特別支援の取り組みとして、今年度も中川の郷巡回指導を依頼し配慮が必要な園児に対する助言を頂き、保育に活かす事ができた。
- 4 「施設・設備等の整備状況報告書」は、別紙のとおり

令和7年度施設・設備等の整備状況報告

全認定こども園

事 項	内 容（具体的に記入すること）
(1) 施設・設備	・ホールのエアコン室外機交換（吉川幼稚園） ・外壁一部修繕（越谷さくらの森） ・園舎ガラス飛散防止フィルム設置（越谷さくらの森） ・保育園棟床メンテナンス（越谷さくらの森） ・園児用トイレの鍵設置（みさとさくらの森） ・25人乗り通園用バス購入（みさとさくらの森） ・保育室エアコンの交換（戸頭さくらの森、柏ひがし幼稚園） ・LED照明に交換（戸頭さくらの森） ・倉庫兼通園バス駐車場のシャッター更新（戸頭さくらの森） ・園児用トイレ改修（霞ヶ関幼稚園） ・リース満了通園バス買取（柏ひがし幼稚園） ・外壁落下防止ネット設置（吉川さくらの森） ・保護者駐車場外灯設置（吉川さくらの森）
(2) 備 品	・ノートパソコンの更新（全認定こども園） ・ポータブルスピーカー購入（吉川幼稚園、霞ヶ関幼稚園） ・アンプセット購入（越谷さくらの森） ・カセットガス発電機（越谷さくらの森） ・ロッカー購入（吉川さくらの森）
(3) 園児への対応	・防災用備品各種購入（全認定こども園） ・AEDの設置（全認定こども園） ・「絵本の森の部屋」のじゅうたん設置（吉川幼稚園） ・トイレ用スポットクーラー購入（みさとさくらの森） ・簡易テント購入（戸頭さくらの森） ・大型絵本、色鉛筆、紙芝居エプロンシアター購入（霞ヶ関幼稚園） ・視聴覚教材（絵本、紙芝居、玩具）購入（吉川さくらの森）
(4) そ の 他	・業者によるワックス清掃（全認定こども園） ・ピアノの調律（全認定こども園） ・樹木の剪定（越谷さくらの森、霞ヶ関幼稚園）

令和7年度 経理・管財室 事業報告

令和7年度より私立学校法が改正され、本学園においても、より一層のガバナンス強化が求められることになった。それに伴い新たな学校法人会計基準が適用されるため、今年度決算では、新基準に基づき財務情報の透明性や説明責任の強化に努めた。

1 令和7年度決算の概要について

学園の令和7年度決算における経常収支差額は81百万円の収入超過となり、前年度の支出超過から大きく改善した。また、当年度収支差額も31百万円の収入超過という結果となった。

2 経営上の成果と課題

今年度の収入超過（黒字）の主な要因は、補助金である施設型給付費収入が前年度に比べ43百万円の増加、人件費支出における一部こども園の教職員に支給していた学園独自の処遇改善手当7百万円の見直し、修繕費支出及び施設・設備関係支出が一部部材の調達難により、更新を次年度以降へ見送ったことによる減少などが大きく影響している。

3 今後の方針と対応策

修繕費支出や施設・設備関係支出については、最適な実施方法の再検討を含め計画的に進めて行くことはもちろん、事業活動計画時において、各施策の実効性を検証し、その精度を高める必要がある。本学園を取り巻く環境は、少子化や物価高騰の影響により、一層厳しさを増す可能性があるが、安定的な財務基盤の構築に努めたい。

4 財務計算に関する書類について

令和7年度決算は、各計算書類の状況、経年比較、財務分析の結果は、以下のとおりである。